

日立製作所

複数のストレージを仮想的に統合して一元管理する 「SANRISE Universal Storage Platform」

サンライズ ユニバーサル ストレージ プラットフォーム

世界初*、ディスクアレイ自体に 仮想化技術を採用

昨今、多くの企業/団体の情報システムは、急速なデータ量の増加やデータの多様化、アプリケーションの特性に応じたストレージリソースの適用などにより、機種異なる複数のストレージが混在してしまい、管理や運用が複雑化している。このようなマルチティアド(多階層型)ストレージ環境に対して、より効率的で容易にストレージを管理するソリューションが求められていた。こうしたニーズに応えて、(株)日立製作所(以下、日立)は、これまでのエンタープライズストレージ製品の機能範囲を超えた機能を提供する、次世代ディスクアレイサブシステム「SANRISE Universal Storage Platform」(以下、SANRISE USP)を発表した。

SANRISE USPの特長として、世界で初めてディスクアレイ自体に仮想化技術を適用した、外部ストレージ接続機能「Universal Volume Manager」があげられる。これは、現在使用している機種異なる複数のストレージリソース(外部ストレージ)とSANRISE USPを接続して、



SANRISE Universal Storage Platform (最大構成)

全体としてSANRISE USP内蔵ストレージリソースの約100倍に相当する最大32ペタバイトの容量を仮想化技術により一元管理(ボリューム管理/容量管理/アクセスセキュリティ管理/パス管理など)する機能である。この機能をディスクアレイ自体の機能として実現したことで、管理・運用効率の向上によるTCO(Total Cost of Ownership)の削減とともに、データロスの心配なく高速かつより安全にストレージ装置相互でのデータコピー、アーカイブ、マイグレーションなどを行うことが可能となった。

その他の特長として、SANRISE USPは、同製品に規模や性能異なる外部ストレージを接続してコピー機能で提供することで、仮想的に「DLCM(Data Life Cycle Management)」基盤を構築し、既存投資を有効活用

しながらストレージ全体の使用効率を高めて、データの総保有コストの削減を可能にしている。また、サーバごとに専用ストレージ領域を提供する「仮想プライベートストレージ機能」や、災害時の回復能力を高めた「ユニバーサルレプリケーション機能」もサポートしている。

さらに日立では、SANRISE USPの運用・管理をサポートする同社のストレージ管理ソフトウェア「JP1/HiCommandシリーズ」とストレージサービスを強化し、TCOの削減と安定稼働を強力にサポートしている。

* 2004年9月8日発表時点にて。

<お問い合わせ先>

(株)日立製作所
RAIDシステム事業部
TEL: 03-5471-2201
URL: <http://www.hitachi.co.jp/sanrise>